

<p>1. 川西市の重点方針</p> <p>元気でうるおいのあるオンリーワンのまちづくりを実現するため、第4次総合計画後期基本計画「笑顔・ときめき川西プラン」に掲げる次の3点に重点を置いて施策展開を図ります。</p> <p>①次代を担う子どもたちが健やかに育つ環境づくり ②市民の笑顔と元気がみなぎるまちづくり ③市民とともに築く未来に向けたまちづくり</p>	<p>2. 消防本部のサービス対象者</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 事業所、学校等は消火・通報・避難を円滑に実施することができ、災害発生時には、地域と共助できる強い連帯力のあるまちであることを望んでいます。 ・ 自治会等地域においては、住民自らが消火・通報・避難を行い、更に応急手当が実施できることを願っています。 ・ 災害により生命・身体・財産の保護を求めている者や災害弱者等は、有事の際における素速い対応等、災害に強いまちづくりを望んでいます。 	<p>3. 消防本部を取り巻く経営環境</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 本市と宝塚市及び猪名川町の2市1町は、兵庫県市町消防の広域化推進計画に基づき、消防広域化協議会を設置するため、平成22年7月1日「宝塚市、川西市及び猪名川町消防広域化協議会規約」を制定し、平成24年度末までに広域化実現を目的とし、協議、検討しています。 なお、この2市1町で本年4月1日から消防通信指令業務の共同運用を開始しています。 ・ 職員の高齢化に伴う現場対応力の低下、更には、団塊の世代の退職にともなう知識・技術の伝承の停滞が予測されます。
---	--	--

<p>4. 消防本部がめざす姿</p> <p>消防活動に必要な知識・技術・体力の更なる向上が図られ、チーム活動が的確に行える組織となり、また、各種災害の予防、被害の軽減をすることにより、安全で安心な暮らしのできる都市であることをアピールできる市をめざします。</p>
--

<p>5. 消防本部の現状</p>		
<p>(1)重要成功要因</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 市民のニーズを正確に把握するとともに、公助だけでは限界があることから、自助・共助・公助の連携を図り、災害に強いまちづくりをします。 ・ 組織を専任化することにより、処理能力のレベルアップを図り、消防活動等においては、迅速で確実な判断ができる体制を確立します。 ・ 職員が常にモチベーションの持続とスキルアップを図れる体制を確立し、ベテラン職員からの知識・技術の伝承がスムーズに行われる職場環境の整備に取り組んでいきます。 ・ 消防職員は採用時から目的認識を明確に有しており、職業意識やモラルを高く持っていることから、全体としてもその維持努力をしていきます。 	<p>(2)経営上の強み</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 災害が複雑多様化している中で、市民が消防に寄せる期待は益々高くなっています。そのため各出動隊においては、災害出動後の事後検証を行うなど、各職員が持ち合わせているスキルは非常に高く、改善を重ねることにより、よりハイレベルの現場対応能力を維持する取り組みをしています。 ・ 個人の責任が果たせてこそチーム活動が達成できるという意識が浸透し、日々の体力錬成、各隊による小隊訓練、所属による合同訓練等によりスキルアップを行っています。 	<p>(3)経営上の課題</p> <p>①市民の満足に向けて</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 住宅火災による死傷者を減らすために住宅用火災警報器の設置が義務化され、既存住宅については本年5月31日まで設置が猶予されていますが、22年度末における普及率は57.8%に留まっていることから、普及啓発活動を重点的に取り組む必要があります。 ・ 心疾患に対し有効性が広く認知されている自動体外式除細動器(AED)が公共施設や事業所など様々な場所に配備され、使用方法を含めた応急手当等の救命講習のニーズが増加していますが、災害出動体制を維持しながらの救命講習会の開催が困難になってきています。 ・ 救急車の適正利用を定期的に広報誌等で啓発したことにより、一時、救急出動に一定の歯止めがかかりましたが、昨年度においては消防通信指令業務の共同運用をしている2市1町ともに過去最高件数を記録しました。今後、さらに適正利用を呼びかけ、「早く来てほしい」「早く助けてほしい」という本来のニーズを満たすための対応を図る必要があります。 ・ 情報発信については、消防からの一方的なものになりやすいことから、市民参加の観点を加え充実を図るよう検討する必要があります。 <p>②組織体質の改善に向けて</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 消防活動はチーム(隊)での活動であり、チームワークの重要性を各職員は十分認識しているが、その反面、各隊ごとの活動に陥りやすいことから、出動隊間の連携がとれていない場合があるため、各隊ごとの連携強化を図るために各種災害を想定しての合同訓練を実施し、連携に関わる知識・技術のレベルアップを図っていきます。

<p>6. 消防本部の重点目標</p>	
<p>(1)市民満足度の向上に向けて</p>	<p>1 住宅用火災警報器の設置促進 街頭広報や各種訓練・イベント開催時における広報及び、ホームページや広報誌への掲載による住宅用火災警報器の設置促進を図り、その進捗状況を正確に把握するため住宅訪問を実施します。</p> <p>2 AED講習を含む救命講習会の開催 市民等を対象としたAED講習を含む救命講習会を計画的に開催し、並びに出前講座等による応急手当等の普及啓発活動を実施します。</p>
<p>(2)組織体質の改善に向けて</p>	<p>・ 消防訓練等の実施 チーム間の連携強化と意思疎通を図るとともに知識・技術の伝承とリーダーの育成を図るために、各種災害を想定した合同訓練を実施します。</p>

<p>7. 消防本部の目標</p>							
<p>指 標</p>		<p>H19実績</p>	<p>H20実績</p>	<p>H21実績</p>	<p>H22実績</p>	<p>H23末目標</p>	<p>H24末目標</p>
<p>① 施策評価指標</p>	<p>出火率</p>	<p>3.3件</p>	<p>2.6件</p>	<p>2.7件</p>	<p>2.5件</p>	<p>2.1件</p>	<p>2.1件</p>
	<p>火災現場への平均到着所要時間</p>	<p>5.1分</p>	<p>5.0分</p>	<p>5.3分</p>	<p>6.5分</p>	<p>4.5分</p>	<p>4.5分</p>
	<p>救急現場への平均到着所要時間</p>	<p>5.5分</p>	<p>5.3分</p>	<p>5.4分</p>	<p>5.5分</p>	<p>5.0分</p>	<p>5.0分</p>
<p>② 市民満足向上目標</p>	<p>1 住宅用火災警報機の推計設置率</p>	<p>46.0%</p>	<p>50.0%</p>	<p>55.0%</p>	<p>57.8%</p>	<p>80%</p>	<p>90%</p>
	<p>2 AED講習を含む救命講習受講者数</p>	<p>2,315人</p>	<p>2,789人</p>	<p>2,226人</p>	<p>2,414人</p>	<p>3,000人</p>	<p>3,000人</p>
	<p>消防訓練等の実施回数</p>	<p>867回</p>	<p>896回</p>	<p>827回</p>	<p>931回</p>	<p>950回</p>	<p>950回</p>